

令和5年度 全国学力・学習状況調査から（前期課程）

小美玉市立小川北義務教育学校
令和5年 10月

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析をもとに、小美玉市の子どもたちの学びの力をさらに伸ばすために学校や家庭で大切にしたいと考えられる内容をまとめたものです。「確かな学力の定着」を実現するために、学校と家庭、地域が一体となった教育活動を展開し、子どもたちの学力向上を目指して、引き続き取り組んでいきたいと思えます。

令和5年度 本校の教科の学力状況（小学校） ※県の正答率は、整数値で公表

	国語	算数	本校の総括
小川北義務教育学校	◎	◎	・落ち着いた授業態度や毎日の家庭学習などの取組等が、基礎基本の定着につながっている。 ・自分の考えを表現したり、相手に伝えたりすることに課題がある。タブレット端末などを活用した意見の共有化や学び合いの機会を充実させ、協働的な学びにつなげていきたい。
茨城県	67	61	
全国	67.2	62.5	

◎：県を上回っている ○：県と同等程度 ▲：県を下回っている

【小美玉市の調査結果から】

国語科

《成果》

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

《課題》

- ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

《改善方法》

- ・授業の中では、表、グラフ、写真等の様々な資料に触れる機会を増やすとともに、資料の中の重要だと思える言葉に印をつける活動や資料同士の関連を図示する活動を設定する。また、書いた文章について友達とアドバイスし合い、条件に合わせて書くことへの意識を高める。
- ・問題文の中の重要な語や文を考えて選び出し、印をつけて検討する練習をする。また、自分が選んだ答えを問題用紙に簡単に書いて当てはめてみるといった丁寧な見直しの習慣もつけていく必要がある。

算数科

《成果》

- ・（2位数）÷（1位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる。
- ・二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。

《課題》

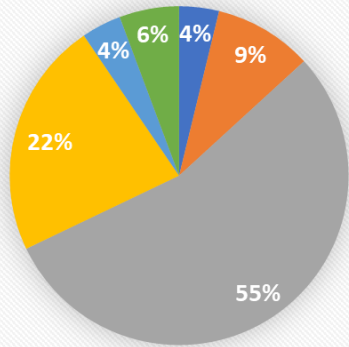
- ・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。
- ・加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることに課題がある。

《改善方法》

- ・問題の解決に式や言葉を用いることができるようにするために、式の数は何を表しているのかを説明したり、立式の過程を文章で表現したりする活動を授業の中に取り入れる。
- ・授業の中で基本的な計算の仕方を振り返って確認する。

【児童質問紙の結果から】

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

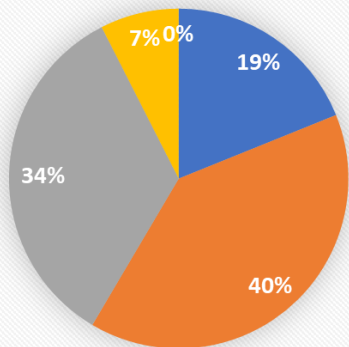


- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない

小美玉市が目標としている6年生の1日の学習時間は「70分」なので、半分以上の児童は目標の時間を超えていることが分かる。

その反面、1日の学習時間が30分よりも少ない、全くしない児童が合わせて10%もいることから、後期課程に向けて、ドリル学習だけでなく、タブレット端末を使った課題など個々の実態に合った家庭学習の取り組み方を奨励しながら学習習慣の確立を目指し、基礎基本の定着につなげたい。

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



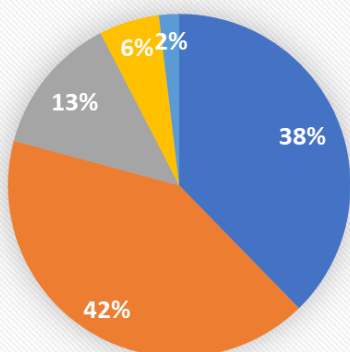
- 発表していた
- どちらかといえば、発表していた
- どちらかといえば、発表していなかった
- 発表していなかった
- 発表する機会がなかった

これまで自分の考えを発表する機会があったが、自分の考えの根拠を説明するために資料や文章を使ったり、構成を考えたりして発表はしていなかったことが分かる。

自分の考えや意見などが相手に伝わるような文章の構成や話し方について考える機会を設けたい。グループでの話し合いや学び合いの中で、根拠を明確にして話すことを意識させたい。また、タブレット端末を使っての意見の共有などを取り入れ、個別の対応も図っていききたい。

また、授業の振り返りの共有をし、教師や友達にアドバイスをもらいながら、児童の表現をブラッシュアップする方法が考えられる。

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない
- 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

グループでの話し合いや学び合いの中で、自分の考えを発表して終わりではなく、より良い考えを生み出すために試行錯誤をする中で、新たな知識を獲得したり、友達の多様な考えに触れたりできるようにしたい。

【まとめ】

学校での取組はもちろん、ご家庭でも規則正しい生活を送るための支援だけではなく、子どもたちが前向きな生活を送れるように、日々の励ましや温かい声かけなど自己肯定感が高まるような支援をお願いいたします。